



福崎かずたろう

第8回 雨天走行雑感

今年は雨が降らんなあ、おかげでエス君がホコリっぽくて困るわい。などと考えていたら、このところ、やたら雨が降り続き、まるで梅雨のようだ。今度は泥だらけで困るわい。ということで（何がトイウコトなのか分からんが）、異常乾燥注意報の季節にもかかわらず、雨の日の走行についてダラダラと書いてみよう。今回は特に雑感ですんで、よろしくう。

☆ わたしゃ雨の日走行大好き

雨の日というものは、一般に嫌がられる。車の運転にしても、晴れの日に比べて、何かと困難なことが多い。しかし逆に雨の日こそ、車に乗っている有難味が分かるとも言えるだろう。さらにドライブであれば、雨なら雨で楽しめることも多いと思う。

霧雨にかすむ田んぼ、その向こうに藁葺き屋根の民家 —— 高温多湿の日本の風土には、雨が似合うのだ。街中だって、ドシャブリの雨に濡れる信号機の金属感・じっとり濡れたコンクリート・鈍く光るネオン —— こういった景色も捨てがたいものだと思わないか？

さらに雨の日はどういうわけか、車内に閉鎖感が生じる。

雨が屋根を打つ音で、外の音が聞こえにくくなるのか、それとも空気中を音

が伝わりにくくなるのか、あるいは心理的なものなのか、いずれが原因かわからないが、とにかく、車「内」に居るという感じが強くなる。さらにカセットでもかけようものなら、もう完全に個室である。それでも景色は自分の運転にしたがって変化していく。雨の日ドライブが好きだ！

もひとつ、やはり雨の日は、優越感に浸れる。人々は傘をさし、雨粒の攻撃を避けている。自転車乗りは役に立ちそうもない傘を片手に、ひょいこらフラフラ走っている。バイク乗りは「もう、どうでもいいぜ！」ってな感じのヤケクソ気味で雨ざらしになっている。そんなとき車はどうだ！普段と変わらないじゃないか。ふふふん、余裕！ですね。（ここら辺はイヤミ気味に読んでね）

☆ 雨の日の注意

では次に、本題である「注意点」について、様々な（バラバラな）見地から見よう。

まず、歩行者対策である。傘をさすことによって歩行者は、片手が塞がれ、視野も大いに狭まる。そしてどうしても急ぎがちになる。子供は子供で、はしやぎまわり、たいへん危なっかしい。車の方はというと、視野が狭まり、ブレーキが効きにくくなる。よって、当り前のことだが、雨の日はお互いに注意が必要である。特に歩行者は交通弱者として、車側からは、守らなくてはならない立場であるので、なおさらである。

広いとは言えない日本の道路、ともすれば水たまりの水を歩行者や自転車に跳ねかけてしまう。これをなるべく避けるためには、どうするか。センターライン寄りに走る、のは良いが、限度がある。対向車だって寄ってくるので、危険である。やはりオーソドックスに人を見かけたら「徐行する」がベストであろう。それと意外と気が付かないのが、後輪の回転による、水の跳ね上げであるが、これも徐行することで、かなり減ると考えられる。

次にバイクである。いきなりだが、私はあまりバイクに対して、良い印象は

持っていない。読者の半数以上の反感を買う、ということを承知で書くならば、
「バイク乗りの知的レベルは、車乗りよりも低い！！」

ああ～恐わあ～。はっきり言って、こういう事は書かない方がいいですね。
でもそう思ってるんだからしかたないね。また読者の皆さんのご意見をお聞かせください。SさんTさん、その他大勢の良識あるバイク乗りの皆さん、ごめんねえ～。ただ、誤解の無いように言っておくと、バイク乗りの方の中には、超マジメな方も大勢いらっしゃるでしょうし、車乗りの中には、斬って捨てたくなるような奴もたくさんいます。知的レベルの高い低いは、あくまでも平均的な値の事を言っているのであります。バイクは16歳から乗れるし、平均年齢も若い、そういったことも原因でありましょう。ま、とにかく私はバイクは嫌いなのであります。

で、話を「雨」に戻すと、バイクの中には、雨降りの日でも、普段と同じように車のあいだを抜けて行くのがおるんですな。急いでいるのは分かるのですが、危ないです、たいへん。雨の日というのは、窓ガラスは曇るわ・水滴は付くわで、ドライバーはほとんど前しか見ていません（前しか見れません）。また水たまりにハンドルを取られます、ふらつきます。ブレーキも利きにくいです。こんな状態の中で、バイクが、狭い車と車の間を、ものすごいスピードで抜いて行ったら、肝を冷やしますで。「あのバイクが滑ってコケたら」とか「前の車がふらついて、そのあおりで横のバイクがコケたら」とか考えたら、おちおち運転もできません。ですからバイク乗りの皆さん、雨の日は充分に安全な状態で抜いて行ってね。

車の方も、注意しなくてはいけないのは当然です。できるだけクリアーな視界を保ち、後方からバイクが来たら、進路を譲ってあげるくらいの事はした方がいいでしょう。そして歩行者対策以上に、水跳ねを注意しないと、「めくらまし」をかます事になります。高速で走っているバイクにとって、前方が見えなくなることは、たいへん危険だろうと思います。

最後に車自身について、何やかやと。

まず走行面について。

どしゃ振りになりますと、日本の道路事情の貧しさか、そこここに、けっこ

う大きな水たまりができてしまいます。そこに車がやってきて、片輪だけ突っ込むとどうなるか。

水たまりに突っ込んだ方のタイヤは、水の抵抗で回転力を奪われます。もう片方は突っ込む前と同じ回転数です。つまり左右の車輪の間に、回転数の差が生じます。すると、水たまりの方へと車が曲がる。いわゆる「ハンドルを取られる」という状態になります。頭では分かっている、意外と驚くことが少なくないものです。特に高速走行中にググッとハンドルを取られると、ちょっとしたパニックものです。

濡れた路面というやつは、乾燥路に対して確実に滑ります。特によく遭遇するパターンとしては、路面表示用のペイント、側溝や工事の金属製のフタ、それから落ち葉など。ペイントや金属製のフタの場合は、交差点の手前などで注意。急ブレーキをかけるとタイヤがスリップします。しかしこれらは、注意して走行する、あるいは徐行すれば、回避できるものなのですが、枯れ葉の場合は、どこに落ちているとも予測できず、しかも不規則な滑り方をするので、落葉時には十分に注意したいところでもあります。

それから、なぜ雨の日の道路は混むのであろうか、ということも考えてみませう。原因として、二つのことがあげられます。一つは「天気が悪いから車で行こうか」という、雨具代わりに自動車利用者の存在。もう一つは、諸々の理由により、ドライバーが車間を開けるので、一定時間に通行できる車の量が減るといふもの。

後者は、まあ、しょうがないです。誰だって事故を起こすよりは、時間がかかっても、車間を開いて安全運転をするでしょう。逆に雨だろうが雪だろうが関係ないぜ！ってのは危ないですよ。問題は前車ですな。ま、雨の日に濡れたい人はいませんから、車を持ってれば、乗りたくもなりますよね、人情からすれば。けど、そこは我慢していただきたい。私のように毎日同じ時間に同じ場所を通っていると、だいたい見知った車にたくさん出会います、エス君と同じように、皆うす汚れています。それが雨の日になると、こざれいな見知らぬ車がどんどん出てきます。「あ、こいつらのせいで今日は混んでるんだな」と思うとちょっと腹が立ちますね、これも、まあ、エゴですけど。

では、次に車内について。

窓ガラスがクモル、このことについて、少し勉強してみましよう。これは、ガラスを境にして、外側と内側の温度に差があるからである。一般的には、窓ガラスは内側が曇る。外側の気温が低いと、ガラスは外側から冷やされ、ガラスに接した内側の空気が過飽和状態になる。過飽和状態とは、中学校の理科の2分野の教科書下巻参照、などと私は言わない、わからない人はこのページ下のコラム@を見てください。

—— ということで、窓ガラスの曇りは、ほとんどが水蒸気量の差が原因であるので、それをなくせば解決である。一つは温度を上げること（ヒーターの利用）、もう一つは湿度を下げること（エアコンの利用）である。

一つ目の「温度を上げる」だが、これは簡単、DEF（デフロスター）の位置にヒーターのスイッチを変えればよい。フロントガラスに対してヒーターから温風が出るだろう。今の車はほとんどドアミラー車だが、新しい車はだいたいサイドガラスに対しても温風が出るようになっており、DEFでフロントとサイドのガラスがいったんクリアされるようになっている。

二つ目の「湿度を下げる」は、上記の逆の発想で、内側の水蒸気量を減らしてしまえば、水に変わる水蒸気も無くなるという考えである。エアコンと言えば、夏場のクーラーとしてしか使われないことが多いが、私はむしろ冬によく使った。今のエスクードはエアコンは付けていないが。

さらにこの二つを併せれば、鬼金棒である。「除湿暖房」と言われる奴で、ヒーターとエアコンを同時にかけるのである。こうすればどんな曇りだってイチコロさ！・・・と思う。

@ 過飽和状態とは・・・

空気の中に含むことができる水蒸気（気体の H_2O ）の量は、温度により決まっている。温度が高いと多く含め、低いと少ししか含めない。そして、その時の温度で、含むことのできる限界を越えると、水蒸気は水（液体の H_2O ）への変身を余儀なくされる。これが過飽和状態であり、窓ガラスの曇りの原因である。

油膜取りについても考えてみよう。雨の日の必携品として、油膜取りスプレーがある。フロントガラスには、前車の跳ね上げによって、道路上の油などが付着している。そこに雨粒がつくと、光をキラキラと乱反射して運転にさしさわるのである。しかし、運転中はなかなか外に出て、窓についた油膜を取るということはできない。そんなとき油膜取りスプレーがあれば、信号待ちなどの間にも吹き付けて、ワイパーで拭えばスッキリとする。カーショップや最近ではスーパーなどでも売っているので、お使いの方も多いと思う。

ただ、タイプがいくつかあって、「強力油膜落とし」なんて書いてある奴は、洗車などの時にガラスに塗り付けて使うやつなので、運転中には使えない。それと、ウィンドウウォッシャー液の中に注入するタイプもあるが（私も現在、使っているが）高いだけで、値段ほどの効果はあまり認められないと思える。ただ、一度入れてしまえば、あとはウォッシャーを出すだけで良いので、ブシヨウな方には手軽で良い、かな？

それから油膜取りじゃないけど、いちどガラスに塗れば、水滴がつかないという、界面活性剤のようなものもある。ただ、低速走行時は役に立たないとか、ウォッシャー液を水に替えなくてはならないとか、けっこう不便なようだ。

ワイパーも2年も使えばゴムが劣化して、作動中に不快な音を発したり、水滴を拭きこぼしたりする。カーショップでワイパーのゴムの部分だけ売っているので、取り替えれば解決する。

それから、雨の日の夕方は、特に早めに点灯をした方がよいと思う。大阪は田舎に比べて、街灯などで道路が明るいせいか、かなり暗くなるまでライトを灯けないようだけでも、自車の存在を他車や歩行者にアピールすることは、保身上、重要である。そして点灯によるアピールはたいへん効果的であると考えられる。

マナーは悪いけども、タクシーなどは、日没前点灯など基本的な保身術を心得ているように思える（プロだからね）。我々も、メーター類が読みにくいな、と思ったあたりから点灯を始めた方が良いのではなかろうか。

☆ 安全運転をしませう

それでは、最後に、雨の日に限ったことではないが、安全運転をしまししょう、という良識を振りかざして締めましょう。

最近、若者（バカモノ）の交通事故死のニュースを見聞きして、とみに思うのは、奴らは普段から、持っている能力の全てを出し切って運転してたんやろなあという事だ。街中を走るとき、持っている運転能力（各人によって違うだろうが）を100として、常にそのうちの50くらいで運転しないと、いけないのではないか。残りの50のうち、幾らかはつまらない凡事に割かれるのだ。

このパーセンテージは、事故可能性率と言っても良いだろう。些細なことでも、運転に関係ないことは、ほとんどプラス（この場合、事故率が高まる）に作用する、例えば、ラジオ。ラジオを聞くことによってリラックスする、あるいは走行に必要な情報をキャッチする、これはマイナス（良いこと）なわけだが、その分、聴覚神経をつかい、また周りからの聴覚的情報（クラクションなど）を取りにくくする。

雨の日には、この事故率のプラス要因が多い。先に述べたように、悪い視界・効かないブレーキ・水たまり・悪天渋滞・歩行者への配慮、精神的不快、等々。これら小さなプラス要因が重なって重なって100に限りなく近くなってはいないだろうか。そして、ちょっとした突発的なアクシデントでもあれば、オーバー100！！にならないように気をつけたいものだね。

ま、かく言う私も人の事はそう言えたものではない、能勢や茨木の山中でころがすときは能力のうち80くらいを出して運転しているときがありますから。

（おわり）

ということで、今回の原稿は、ハンディーワープロで工作中など、暇な時にセコセコ打ったものを集めたものなので、どうも論旨がはっきりしないなあ～。
ま、雑感ということで・・・。

